

授業特別協力者(ゲストスピーカー)報告書

テーマ : エージェントベースモデリングの紹介
授業特別協力者名 : 荻原 成章 氏
実施日時 : 2023年7月11日(火) 3時限
担当教員名 : 竹田 信夫
授業科目名 : ICT 概論
履修者数 : 242名

実施結果

ICT 概論では ICT を社会や企業の活動で使用する際に必要となる基礎的な理論について学修を行い、その一環としてモデル化について学ぶ。

荻林先生は、エージェントベースモデリングの研究者として極めて評価が高い方であり、今回もエージェントベースモデリングの考え方とその応用による社会や経済の理解についてご講義いただいた。最初にプロジェクターへの投影がうまくいかないという問題が発生したが、商学部 SE によって解決された。

授業においては、まずシミュレーションやモデリングについての歴史や考え方についてご説明があり、その後 ABM の考え方と一般に使われている数式モデルの違いが説明され、ABM が社会的な仮想実験が可能なモデリングであることが説明された。

その後、経済のマクロ的なモデル、イジメのモデル、感染モデルについて説明とそれによって得られた知見について説明があり、ABM が社会的な仮想実験を行うことによってそれまでのモデルによって説明が困難であったり、間違った理解が行われていた事象について ABM によって新しい知見と理解が得られることを説明頂いた。

講義内容は学生の興味関心と大いに重なったようで、授業の出席を取った際に出された意見感想においては、「社会現象について考えたことがなかったのと、マクロはまだ習っていないのもあってかなり難しい内容ではありましたが、新たな学びとして取り入れることができ嬉しかったです。」とか「ICT を駆使した研究方法で人文社会システム系・いじめ問題・パンデミック問題まで幅広い学問を取り扱い、実験の結果によって教授の考え、意見を頂けたため非常に貴重な体験をさせてもらえました。」といった声がほとんどであり、また通例一、二行程度の感想が多いところで、長文の感想が目立ったこともこの授業が学生の学修に大きな影響を与えたことをうかがわせた。

残念ながら最初にあったプロジェクターの問題によって時間が足りなくなり質疑応答の時間が取れず、それを残念がる学生も多かった。

この点は大いに反省したい。